

vol.48 ささやく

2026年8月6日（木）19：00開演



○曲目

ディヴィッド・ベイカー

ジョヴァンニ・ソツリマ

シベリウス

チューバと弦楽四重奏のためのソナタ

ソネットとロンド

弦楽四重奏曲 ニ短調「親愛なる声」Op.56

○出演

Quartet PaToNa

ヴァイオリン 神谷 未穂

小川 有紀子

チューバ 山田 悠貴

ヴィオラ 井野邊 大輔

チェロ 三宅 進

お友だちの耳で、ささやいてくださいな。今年のQuartet PaToNaの回もすごいプログラムらしいと。円熟の時を迎えつつあるQuartet PaToNa。今シーズンは、さらに挑戦の時。欧米の弦楽四重奏団は、果敢に、現代作品を当たり前通常コンサートプログラムと織り交ぜながら紹介し、かつ、SNSを駆使しながら作品を広めることに寄与しています。今回の作品も、メディアを通じて、存在が世界に広がってきたもの。さて、昨年末、惜しまれつつ仙台フィルを退団したチューバの山田悠貴が早速仙台へ帰ってきます。チューバ協奏曲なども作曲しているディヴィッド・ベイカーが作曲したチューバと弦楽四重奏のためのソナタ。JAZZやブルースの性質も併せ持つこの作品で魅せてくれることでしょう。イタリアのチェリストで作曲家のジョヴァンニ・ソツリマ。昨年来日して、大きな話題となりました。ポスト・ミニマリズムとも、ボーダレスな作曲家ともいわれる現代の生きる作曲家であり演奏家です。今回の「ソネットとロンド」は、バロックよりも以前からある音楽のような雰囲気を出しながら、反復と展開が、ミニマルミュージックの先を行く面白い作品です。現代曲はちょっと！と食わず嫌いの方でも、このなんとも不思議な音楽体験をMusic from PaToNaと共になら怖くありません。誰も置いてきぼりには致しません！メインには、シベリウスの「親愛なる声」と副題のついた弦楽四重奏曲。三宅さんが、ずっとやりたい！とあたためていた作品です。この回も、お聴き逃しなく！